Lang Lauf №1

1987.6

たいへんお待たせしました。いよいよＬａｎｇＬａｕｆ通信№１の発信です№２も出せることを祈りながら・・・

○ ８７皆生大会出場者決まる！

５／１９日現在で皆生大会の出場許可が来た人を下記のとおり確認しています。この他に出場出来る人は連絡下さい。

何しろ、１６００名からの申込みの中からの選考でしたので、出場組は幸福をかみしめながら、出られない人の分までがんばるつもりでトレーニングに専念しましょう。

～皆生出場許可者～

船越、下田、西村、前田、林、竹内、

＊びわ湖大会とダブッているため、かなりの補欠参加が予想されますので、だめだった人も、もうすこしあきらめないでいましょう。ひょっとすると・・・

○ 前田先生、宮古島完走おめでとう！

１９８７年．第３回全日本トライアスロン．イン宮古島大会 完走記

前田 宏治

青く澄みわたった空、マリンブルーの海、これが宮古島か・・・。

陽射しは重いが爽快。湿度が低いからだろう。５月１７日、宮古空港に着いた時の印象。――― ここから、突然、日焼けした顔が多くなる。強壮な体格の男性、しなやかに健康的な女性たちがウキウキと躍動し始める。まるでオーケストラを奏でる音楽家たちにも似て・・・。当然、当然これからビッグイベントを創造する主人公たちなのだから ――― そう思えるのもあたりまえなのだろうか。

日常の多忙さから解放されて、逃れる様にして来たこの宮古島。やっぱり来て良かった。短い６日間だけど、命の洗濯が出来る。快く旅立たせてくれた家族、両親、そして仕事場の皆々に感謝、感謝。

かくして、自分にとって２度目のトライアスロンが始まりました。初めては昨年の皆生。マラソンの２０ｋｍで走れなくなり、２５ｋｍで歩くことさえ出来ない自分を経験しました。この度は、少しだけ走り込んで来たのだが・・・

前日、ホテルの中庭で高石ともやさんがミニコンサートを始めた。丁度居合わせたので腰をおろして歌った。そして一人ずつ自己紹介。ともやさんが、上手に一人ずつ個性を引出す。そこまでしなくても個性的な人もいる。人間っておもしろいなー。さまざまな人がいた。

レース日。快晴。波はおだやかにないでいる。風が少し強い。東の風だ。ａｍ８：００水泳スタート。またまた、サバの大群にまきこまれて、頭を２・３度なぐられた。浜と水平に泳ぎだしたころにやっとおちついた。１時間で水泳フィニッシュ。上位は４０分で上がっていた。

トランジションは得意だ。Ｎ君と違い忘れ物もしない。バイクにまたがりさっそうとスタート。２０ｋｍあたりで皆としゃべりながらこいでいると、まんどころさんが抜いて行った。４０ｋｍあたりで調子が出て来た。遠藤栄子さんとしばらく並走したが、彼女はあまりにも遅いので先に行った。８０ｋｍあたりで足が張り始めたので、無理せずタラタラとこいだ。野に咲く花は美しく、私達におしみなく声援をくれた。自転車１６０位でゴール。

マラソン。２．５ｋｍ毎にエイドステーションがあるので、休息が何度もとれて楽だった。５ｋｍのラップが２２分。何と、速すぎるのでおさえ気味に。１０ｋｍが５３分。丁度いい。１５ｋｍあたりでトップとすれ違った。２０ｋｍは２時間。余裕をもって折返した。しかし、ここから先はあまり思い出せない。ただひたすらに足だけが動いていたようだ。コールは名古屋日赤の安藤Ｄｒと一緒だった。１０時間１３分。総合１７４位。

帰路、かけがえのない経験をさせていただいた宮古島と、その人に感謝して空路につきました。私自身、何かふっきれたものがあり、命の洗濯となったようです。そして、再度この地に来れます様に。次は家族を同伴して行きたいなあ。・・・と夢はふくらみます。

皆様ありがとうございました。

トライアスロンの魅力。一言で言い表すことは難しいのですが、フィニッシュラインを踏んだひとは（実際には踏めなかった人も）例外なく詩人になりますね。

○ ショートタイプ練習会

佐治のプールがぼちぼち泳げそうです。そろそろ練習会を計画しますので都合のつく人はおいで下さい。（別途連絡します。）

Lang Lauf 通信 No.2

☂皆生トライアスロン～雨中の決戦～西村 健闘17位〃

去る7月19日、雨の中、第7回全日本トライアスロン皆生大会が行われた。我がラングラウフからは、この大会5回目の出場ですっかり皆生の顔となった船越先生、猛練習に励み上位を狙っている西村君、昨年初出場で今年は宮古島で力をつけてきた前田先生、初出場で女性最年少の谷村さん、自転車のロードレースから幅を拡げ今年は篠山マラソンを完走した勢いでトライアスロン初挑戦の竹内さん、大会前夜から飄々として終始マイペースの林さん、そして今年はカッコよさだけを求めてファニーバイクで出場する私こと下田…の総勢7名がそれぞれの目標を掲げてゴールを目指した。

例年、皆生と言えば“暑い”の一言に尽きるのだが、今年は一日中雨に恵まれ（祟られ？）トライアスリートにとっては、走りやすい一日であった。中には雨のお蔭でバイクで転んでケガをした人もいたようです。

スタートの水泳は毎年のことであるが、水泳とは名ばかりの正に格闘技である。メンバーのなかにもゴーグルを外された人がかなりいたようである。メンバーのなかで一番最初に水泳をゴールしたのは、やはり今年も船越先生と思いきや、予想に反して（というより猛練習の成果で予想どおりというべきか）西村君であった。やや遅れて船越先生、以下前田先生、（以外と早かった）谷村さん、竹内さん、（相変わらず水泳を苦手とする）下田、最後に林さんとつづいた。

水泳を好タイムで上がった西村君は、得意のバイクでさらに順位をあげた。私もバイクに入って俄然調子が出てきて、先行する船越、前田両先生に追い付き追い越した。バイクといえば“パンク”がつきものであるが、今年その不運にあったのが竹内さんであった。最初の頃、出場の度毎にパンクをしていた私でさえ二度パンクをしたことはないのであるが、竹内さんの場合は不運にも二度パンクをし、手持ちのスペアタイヤも切らしてしまった。普通の人ならここでリタイヤかバイクを担いで走るのであるが、竹内さんの場合は、（図々しくも？）他の選手からタイヤを貸してもらったそうである。これもトライアスロンのいいところである。外の競技なら考えられないことである。

バイクを終わっても以前として雨は降り止まなかった。マラソンでは熱さ対策として、ランニングシャツをへそが出るくらいに短く仕立て直して万全を期していたが、その必要もなかった。メンバーのなかでトップをいく西村君は、相変わらず好調に飛ばしているようであった。それでもトップグループの選手達はエイドステーションでも殆ど休まず、休むのになれている西村君はエイドステーションでかなり抜かれたようである。我々後方に控えしメンバーはと言えば、各自がマイペースでエイドステーションではしっかり休んで、とにかく完走を目指した。

今年は応援も多かった。毎年家族で応援の船越ファミリーを始めとして、前田さん・竹内さんの奥さん、選考漏れで出場できなかった国森さん、ボランティアで応援の山口君、そしてバイクアドバイザーの本城さんも応援に駆け付けてくれた。こうした応援にも励まされメンバー全員がめでたく完走することができた。速かった人も、遅かった人も、応援の人もみんな御苦労様でした。今年出場できなかった人は来年目指して頑張ろう。

～第7回全日本トライアスロン皆生大会メンバー成績～（完走者398名）

順位	氏名	SWIM 3km	BIKE 130km	RUN 42.195km	総合
17	西村和弘	59:07	4:19:26	3:49:11	9:07:44
59	下田智明	1:11:08	4:29:37	3:59:26	9:40:11
156	竹内俊二	1:08:53	5:07:08	4:23:15	10:39:16
163	前田宏治	1:04:34	4:54:29	4:45:17	10:44:20
163	船越修	1:00:21	4:54:22	4:49:37	10:44:20
253	谷村智恵美	1:06:42	5:39:13	5:03:22	11:49:17
257	林徹	1:24:44	5:21:01	5:05:16	11:51:01

その他大会・練習会報告

◌スイム・ラン多伎（8/2）…船越さんバイクがないとやっぱり速い

順位（完走者約200名） SWIM 0.6km RUN 21.2km 総合

16	船越修	18:40	1:31:11	1:49:51
67	日比野眞	19:？	1:49:？	2:08:？

☼ミニ鉄人レース青谷大会（8/2）…ついに出たメンバー初の優勝者

（完走者20名） SWIM 1.0km BIKE 38.0km RUN 10.0km 総合

優勝 西村和弘 18:07 1:03:07 45:06 2:06:20

☼富士登山競走（7/25）…トライアスロンよりきつかった

順位（完走者；男757，女13名） 山頂コース（21km，標高差3006m）

294（男子の部） 下田智明 3:59:47

◌ショート・トライアスロン佐治大会（6/28）…のんびりマイペースで

完走者2名；桑谷泰行（1位；2:39），下田智明（2位；2:41） 伴走者；船越修

これからの大会予定

（大会名）	（参加予定者）
ワールド トライアスロン イン ひろしま（8/30）	下田
トライアスロン ジャパンカップ イン 伊良湖（9/6）	日比野，桑谷
蒜山高原マラソン（10/25）	佐治ランナーズ
月間走り込み大会（10/1-31）㊟〆8/31	佐治ランナーズ，船越ファミリー
河口湖日刊スポーツマラソン（11/29）	西村、谷村、日比野、下田

…Ｌａｎｇ　Ｌａｕｆ　No,2　(1987.8.20発行.)…

発行責任者　下田智明

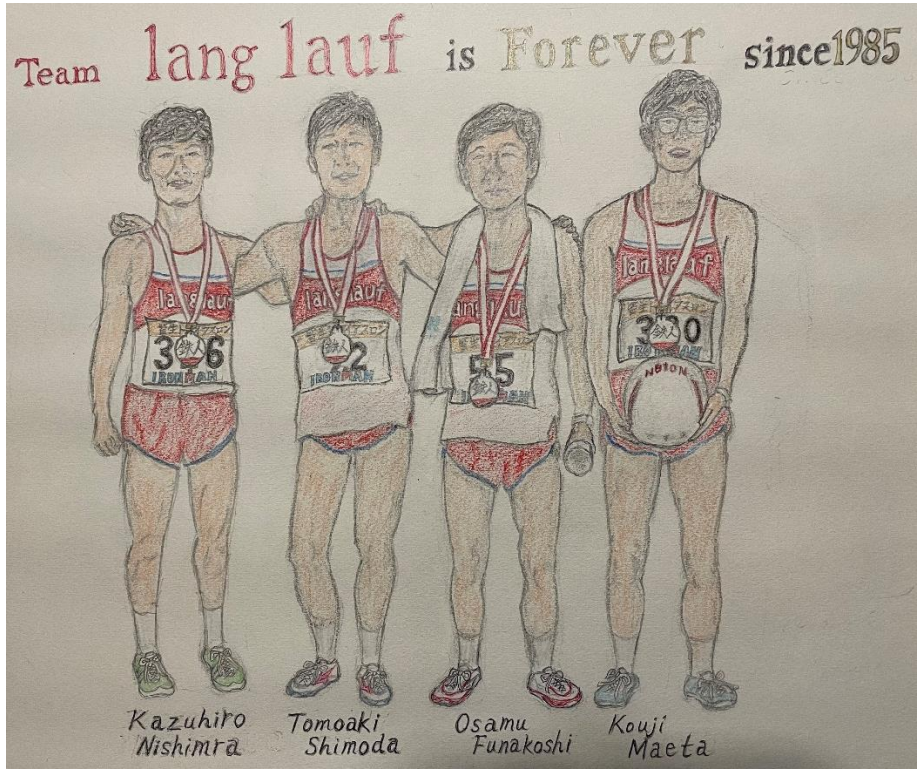
協力　　ＬａｎｇＬａｕｆメンバー一同

☞ＬａｎｇＬａｕｆ（通信）は定期刊行物ではありません。いつでも誰でも発行できます。

Ｌａｎｇ ｌａｕｆ通信№3

1985 年にトライアスロンで出会った 4 人のアラサー世代が、チームラングラウフを結成してもう 38 年が過ぎました。

当時は毎年、皆生トライアスロン出場はもちろん、11 月の河口湖マラソンをはじめとして県外の大会にもメンバーそろって出場していました。その後、メンバーの高齢化とともに徐々に一緒に出場する大会も少なくなりましたが、年 2 回程度の飲み会だけは、メンバー4 人が唯一顔を合わせる機会として毎年続けてきました。最近は、その飲み会も新型コロナウィルス感染症や船越先生が難病で入院されていることもあり開催することができなくなり、4 人がそろうこともなくなりました。

そこで、当時を思い出しメンバーがいつでも出会えるようにと、4 人そろったトライアスロン出場の写真を色鉛筆で描いてみました。4 人揃って撮った写真は何枚かありましたが、ラングラウフのユニフォーム姿で 4 人揃った写真がなかったので、1986 年の皆生トライアスロンとびわ湖トライアスロンの完走後の写真を組み合わせて描いてみました。びわ湖は船越、西村、下田が出場し、完走後にゴール付近で前田先生に取っていただいたもので、皆生は 4 人が出場し、最後にゴールした前田先生を出迎え 4 人で撮った写真を使いました。なお、お送りしたものはいずれも原画のコピーです。

2023 年 2 月 3 日　下田